

## ●趣味は映画鑑賞。 一週間で五〜六本

宮本 子供の頃から映画が好きで、『OK牧場の決闘』は印象に残っている。当時は岩見沢にも四館あった映画館が、今は一軒も残っていない。医学生の頃は『健さん』の任侠映画三本立てを北二十四条にあった映画劇場で見たものです。

藤井 私は、遊樂地下に通いました。

宮本 遊樂地下とは懐かしい。女房いわく、デートで初めて観た映画が『フーテンの寅さん』で、映画館は遊樂地下。女性は細かいことを覚えていたものですね(笑)。

藤井 奥様との馴れ初めは？

宮本 そんなことまでインタビューするの？

藤井 毎回恒例です(笑)。

宮本 僕の場合はいいでしょう(笑)。

映画の話に戻しましょう(笑)。面白かったのは『アナライズ・ミー』と続編『アナライズ・ユー』。主演のピリー・クリスタル演じる精神科医と、ロバート・デ・ニーロの掛け合いが楽しい映画でした。

診療と医師会活動の合間を縫って暇を見つけてはDVDを借りてきます。新作はすぐに返却しなきゃならないから忙しい。

## ●野球チームのオーナー兼選手でした。 チーム名は…

藤井 体調はいかがでしょう？

宮本 尿酸値が高めかな。酒量は減りましたが、秋と冬に必ず太ります。

藤井 エッ？

宮本 トウキビと餅が大好きで食べ過ぎちゃう(笑)。医者の不養生かな。前立腺がんになっただけで恥ずかしい。

藤井 私もがん検診してません。

宮本 自分の科目で亡くなるドクターが結構多いでしょう。

藤井 因縁があるのかも。不思議ですね。

余暇の過ごし方は？

宮本 ごろ寝しながらDVD映画鑑賞が好きですね。

以前はナインの年齢四十歳以上の軟式野球チームを結成して、国体道大会に挑む常連チームでした。

藤井 チーム名は？

宮本 『宮本泌尿器科』(笑)。

ユニフォームの胸に縫い付けてた。医院名そのままだけど、僕がスポンサーだからね(笑)。

藤井 格好いい。練習もされましたか？

宮本 岩見沢大会で勝ち進むと、南空地大会、

全道大会と続き、土日は一日に四試合。練習なんかしてたら疲れますから、練習なし(笑)。

## ●医師会員からの 現場の声に敏感でありたい

藤井 会議で、宮本先生のご発言から受ける印象は「ダラダラ話さない。要点・論点が明確、大事なことに集約する」。お書きになる文章を含めて宮本先生はシャープな方だと思います。

宮本 早く会議を終わらせて、JRで岩見沢に帰りたいだけです(笑)。

心掛けているのは、「文章は要点を簡潔に、いく通りにも解釈できる文章は書かない」。『理科系の作文技術』(木下是雄著・中公新書)はたいへん示唆に富んでいて参考になりましたよ。その文中の例文に「黒い目のきれいな女の子」というのが出てくる。これは読点の場所によって、幾通りにも読めます。

藤井 ざっと三〜四通りの意味はありますね。

医師会についてお考えをお聞かせください。

宮本 科目別、勤務医と開業医など、各々の意見の異なりを乗り越え一枚岩になる努力が大切です。明後日は黒松内町で医療フォーラムですが、多くの地方会員の意見を伺うことが大切です。今の執行部役員の数では困難なほど、対処すべき医療問題が山積しています。行動力溢れる役員が増えてくれることを願っています。

## インタビューを終えて

### 頭脳明晰な論客はマクロで考える

常任理事

藤井美穂

お若い頃に運転技術とスピード感覚を養われたとか。当時、札幌医大自動車部の友人から「クシの運転手で食べていけるよ」とお墨付きをもらったと、嬉しそうにおっしゃる。

長距離ドライブで道に迷わない極意を質問すると、「小さいことに拘らず大きな視野でゆったりと。無事に戻ってくれば良いんだから。戻れる準備を怠らないように」。何事も大局観が大切であるとおっしゃった。強面だから笑顔が一段とチャーミングでした。

●藤井先生は、ミミズは平気ですか？

藤井 ご幼少の頃の思い出から、お聞かせください。

宮本 近くの川でフナやドジョウを釣っていました。餌になるミミズも豊富でしたが、捕ると手が臭くなつてね。藤井先生はミミズは平気ですか？

藤井 はい(笑)。ミミズを細切れにして池に放り込んで、魚の餌にしてみました(笑)。

生涯忘れられない思い出は？

宮本 まだ、生涯は終わっていないのでお答えできません(笑)。



生年月日 昭和21年10月9日  
出身地 岩見沢市  
出身大学 札幌医科大学 昭和47年卒  
泌尿器科

●大学時代は緑膿菌感染の研究と  
スキー・サッカー

藤井 宮本先生は冗談をおっしゃる時も、強面のままたので余計に面白い(笑)。

藤井 宮本先生は札幌医大泌尿器科のご出身。教授は熊本先生？

宮本 熊本教授は三十六歳で東大講師から、昭和四十三年に札幌医大泌尿器科教授に着任されたばかり。医局員は教授以下六名の小さな所帯でしたが、エネルギーシユに連日夜七時から十一時過ぎまで感染症の症例検討が続きました。私は緑膿菌の院内感染を担当していました。

藤井 緑膿菌の院内感染はその当時からあったのですか!!

宮本 当時の札幌医大は古い建物で、お世辞にも清潔とは言い難かったです(笑)。

治療法も初期段階で合成ペニシリンの大量投与しかなかった。緑膿菌はミンクの肺炎の原因菌で、北大獣医学部の研究会にも参加して研究しました。

藤井 クラブ活動もご盛んだったとか？

宮本 大学ではスキー部に入りましたが、岩見沢東高時代からサッカー



平成6年、国体軟式野球壮年の部全道大会。選手年齢40歳以上、ナインは岩見沢東高の同窓生が中心。前から2番目が宮本副会長

部でしたので、休眠状態だったサッカー部を、漆崎教授に顧問になっていただき、後輩と再スタートしました。ですから夏はサッカー、冬はスキーと、一年中走ってばかりでした。

岩手県で大会があった際、ユニフォームが無くてね。盛岡のデパートで人数分買ったTシャツに背番号をマジックインキで書いて試合に出場したこともあった。